

# 平成30年度 姉妹校等留学プログラム

## 横浜市立桜丘高等学校 ドイツ国際交流プログラム

### (1) 学校・団体名/種類（派遣高校生的人数）

横浜市立桜丘高等学校/海外研修（2人）

### (2) 渡航先

国/都市：ドイツ/フランクフルト市

外国の高校：シューレ・アム・リード

### (3) 期間

平成31年2月14日～平成31年2月21日（8日間）

### (4) プログラムの趣旨・目的

フランクフルト市の総合高校であるシューレ・アム・リードに通い、日独両国の高校生同士の交流を深めるとともに、ディスカッションやホームステイ等の豊富なプログラムを通じて、国際感覚を磨き、豊かな人間性を育成する。

また、日本人としての自覚と世界で通用する語学力や知識・スキルを身につける機会とし、日本や横浜の素晴らしさを世界に発信できる真のグローバル人材として活躍するための素養を養う。

### (5) 活動内容

横浜市とパートナーシップ協定を結んでいるフランクフルト市の総合高校であるシューレ・アム・リードにて、授業体験や文化活動を通じて日独両国の高校生同士の交流を深めるとともに、ディスカッションやホームステイ等の豊富なプログラムを通じて、国際感覚を磨き、豊かな人間性の育成を図った。

また、日本人としての自覚と世界で通用する語学力や知識・スキルを身につける機会とし、日本や横浜の素晴らしさを世界に発信できる真のグローバル人材として活躍するための素養を養った。参加生徒はコミュニケーション能力の大切さを実感し、積極的に世界を目指す姿勢を身に付けた。

6月 参加募集生徒の選考、派遣生徒の決定

7月 第1回オリエンテーション（ドイツ概要・ドイツ語等） 事前学習開始

10月 第2回オリエンテーション（ホストファミリー・保険等）  
受入プログラム実施

11月 事前学習発表会

2月 派遣プログラム実施

3月 事後学習・報告書作成

## (6)実績・成果

### ○派遣高校生 MSさん

#### 1. 事前学習を通して

事前準備では、留学は単にその国に行って終わりではなく、その国に行くまでに行う事前準備も留学の一つということを知りました。

事前準備では、1年を通して2月にドイツ留学につながる学習をたくさんしましたが、私の中で一番努力したのは、ドイツについて、ではなく日本について知ることです。ワークショップのテーマは「教育」という身近なもので、私の与えられたトピックは「高校の定期試験と大学入試」というものでした。トピックに関連したキーワードを用いたワークショップなので、高校の定期試験と大学入試について調べ、同じトピックの人と話しているうちに、このトピックについての知識がないことに気が付きました。大学入試はまだしも、なぜ自分が普段関わっている高校の定期試験について詳しく説明できないのだろう。この時に私は日本の定期試験をよく知らないからだと思いました。ドイツへ行けば、ドイツの人々は私のことを“日本人”として見ます。つまり、私の高校の定期試験ではなく、ドイツに行けば“日本の高校の定期試験”の説明を求められることに初めて気が付きました。そして私は、日本人として恥じないように、日本について知ることの大切さを学びました。

#### 2. 留学中に考えた事、発見、学んだ事、感じた事

ドイツへ旅立つ前、「小さなことでも感謝を相手に伝える」という目標を立てました。文化が異なっても感謝の気持ちは同じだと思ったからです。朝ごはんを用意してもらった、ペンを貸してもらった、ドアを開けてくれた、何かあるたびに「Thank you.」と伝えました。ある日、いつものようにお弁当を用意してくれたホストファミリーに「Thank you!」と伝えると、「あなたの小さなことでも必ずお礼を言うところ、とても素敵だと思うわ。」と褒めてくれました。その時に、文化が異なっても感謝の気持ちは万国共通だということを改めて学びました。

感謝の気持ちは同じでも、文化が違えば物事に対する考え方は異なります。ワークショップでは、ドイツの大学入試は“高校卒業試験”で、普段の高校生活への取り組みも評価されることを知り、学力を大きく重視する日本との違いを感じました。さらに、高校生のうちから他国へインターンに行けることを知り、高校生のうちに様々な文化に触れることを重要としていることがわかりました。

また、特に留学中は「あなたはどう思う？」と聞かれる機会が多かったのですが、普段自分の意見を相手に合わせてあいまいに述べるということが通じませんでした。ドイツの人々は、自分の意思をはっきり持っていて、授業など意見を述べる活動がとても活発です。言葉の壁もあるのに意見をはっきり言えないのでは、相手と会話できないことに気づき、自分の意見をしっかり持って Yes と No をはっきり答えるように心がけました。



### 3. 成果と課題

今回の留学プログラムでは、「自分が生きてきた世界が全てではない」ということを知ることができました。事前準備やワークショップからはもちろん、ホストファミリーや友達と体験したことから、もっと視野を広げて、様々な文化や考え方を受け入れることこそが国際交流なんだと学べたことが、私がこの留学で得た大きな成果です。

しかし、その文化を知るためには、自分が持つ日本の文化について、深く知ることがとても重要であるとわかりました。なので、次に他国の文化に触れるときは、自分たちの文化との違いを見つけることが出来るよう、もっと日本について、自分について知ることが課題だと感じました。



#### ○派遣高校生 TOさん

##### 1. プログラムを通して実感した事前学習・準備の大切さ

事前準備では、ドイツで行う日本について英語で紹介するプレゼンテーションや日本の伝統芸能であるソーラン節の発表、**Workshop**形式で行うディスカッション等の練習をしました。これらの準備は、以前僕が想像していたものより求められるレベルが高く、越えなければならない壁の高さにくじけそうになることもあり、そうした準備が本番でどのように生きるのかははっきり想像することができなく、思うように進まない瞬間もありました。しかし、少しずつ目標に受かってレベルアップしていったことが実感できるようになると、具体的に何をすべきかが考えられ、またそれらを達成することが自信につながりました。

こうした準備を終え、出国の直前に全員が納得するまで準備を万全な状態に仕上げることができ、海外という未知の場所でこうしたことを行う上での不安は期待へと変わりました。そして迎えた本番では、自分が何をすべきかがはっきりとわかったので落ち着いて、また楽しんで発表や**Workshop**を行うことができました。事前準備は、自分の事だけでなく周りを見渡す心のゆとりを与えてくれました。これはより多くの経験を得ることにつながったと思います。また、自分たちで課題を発見し、それを解決するという能力が備わったのだということも実感しました。

最後に、僕達は最初のミーティングから出国までの約9か月という長い時間をかけ準備を行いました。長い期間を同じメンバーと共に励ましあったり、改善点を話しあったりしたことにより、ともに成長し、信頼できる仲間とドイツで貴重な時間を過ごすことができました。事前準備でより仲を深められたことは本当に良かったと思っています。



## 2. 人生で初めての海外で

一番嬉しかったのは、ドイツの生徒たちが自分たちのことを元からの友達であるかのように接してくれたことです。たとえば、彼らがフランクフルト市街をガイドして連れて行ってくれた時は、自分もドイツの学生であるかのような気分になりました。そう思うことができた理由は、何より彼らが彼らの街のことをよく知っていて、その街のことを好きであること、そして僕らだけを主役とせず彼ら自身も楽しんでいたことにあると思いました。僕たちもそのような点は見習うべきであると思いました。

また、一週間という短い期間しか居られなかったので別れ際にはもっと長く居たいと思いましたが、思い返せば、この短い期間だったからこそ、全ての瞬間を大切にし、より親しくなろうとすることに繋がったのかと思います。もしこれより長い期間であればより親しくなれたかもしれませんが、ここまで毎日を大切には考えなかったかもしれません。その点では僕たち日独メンバー以外の誰も体験できないようなことを経験できたと思います。

この貴重な時間を共に過ごすことができた自分たち（日本人とドイツ人だけではなく、日本人同士も）には、特別な友情を感じました。行く前は、日本と違った文化や街並みに驚くだろうと思っていましたが、ここまで大きく「友情」というものを意識するとは思いませんでした。予想と違った形で、日本には気づけないことに気づくことができ、それも海外留学の面白さなのだと感じました。また、このことから、なんでも実践してみないと分からないということを学びました。

そして、多くの人が優しく接してくれて、本当に気持ちの良い思い出となりました。また行きたいと強く思いました。そういった初対面の人たちの温かさに触れられてとてもよかったと思っています。

## 3. 成果と課題

僕がこのプログラムに参加した当初は、海外の人々と交流ということだったので、英語を中心とした言語力の向上を目的としていました。しかし、このプログラム全体を通して感じたことは、コミュニケーションによって自分を表現し、相手のことを理解するための手段は言語だけではないということです。大切なのは、言葉よりも意思を伝えようとする態度、必死さでした。人は相手の行動や態度からその人がどんな人であるかを知ります。つまり、文化や生活のまったく異なる海外だからこそ、言葉でなく人、一人の日本人としての態度や行動が重要になるということを学びました。しかし、言葉が通じなくてもどかしい思いを何度もしたことから自分の未熟さも改めて感じ、これからの言語学習に対する意欲はより強くなりました。

そして何より、海外という見知らぬ地で相手のことを知るには自分のこと、また自分の国や文化のことを知っていなければならないということを強く実感しました。このプログラムは、海外という場で視野を広げると主に日本に目を向けるきっかけともなりました。

このプログラムは、日本で一生過ごすという考えから、海外への視野も広げたいと感じさせてくれました。今回の体験では本当に多くのことを学び、将来の自分の姿やきっかけになりました。本当にいろいろな方々に感謝しています。

